

このページは5月31日より公開の 日本経済新聞「電子版特集」にて公開された内容です

誇り高い 家づくりへの挑戦

木曾ひのきの家
株式会社もりぞう

希少で貴重な建築材、「木曾ひのき」。その中でも、樹齢80年前後の成木を住宅の柱や内装材に使用しているのが木造住宅の注文建築メーカー「もりぞう」だ。同社の最新ブランド「浪漫ROHMAN（ろうまん）」は、木曾ひのきの素材の魅力に加え、制振や断熱・蓄熱などに最新の技術を融合し、100年の永きにわたって住み継げる家づくりを目指している。もりぞうの最新ブランドと、それを支える企業理念について追った。

数値では表せない価値を守り永く持続させる 木曾ひのきのサプライチェーンを守り、 永く愛される住まいづくりを追究

もりぞう＝「森創」というスピリッツ

「もりぞう」。この社名の由来は、「森」を「創る」からきている。日本人がこよなく愛し、林業家や家づくりに携わる職人をはじめとした「住まい」に関わる人たちが長年守り続けてきた木曾のヒノキの森を守り、育てていきたいという願いがこめられている。

木曾ひのきの供給地である御嶽山の北斜面は、冬は寒い上にあまり陽も当たらない。そういった厳しい条件でじっくり育った木だからこそ、強度が高い。ただし、伐採に至るまで80年前後という長い年月が必要になる。木曾ひのきを守っていくために、ただ伐採し、使うだけではなく、約80年の長いスパンで木曾ひのきを考え、木を植え、伐採する場所をローテーションするという計画を行っている。

長年にわたる現地のビジネスパートナーである勝野木材とともに、植林や間伐といった林業に必要な作業も支援。日本の家づくりを通して、森林保全にも注力していきたいともりぞうの津野社長は語る。

「今年植える木を切るのはおよそ80年後。気が遠くなりそうですが、今年、私たちが建てるための木は、80年前に先人が植え育ててくれたものです。そこに感謝の気持ちを込め、その年数以上に永く住み継いでいただける家づくりに取り組んで参ります」。



トータルで環境に配慮する

現在もりぞうは、富山、長野、山梨、愛知、静岡、千葉、埼玉、群馬、茨城、栃木、新潟に計12の支店やモデルハウスを展開。お客様が建築される地域もほぼこれらのエリアとなる。木曾で産出された木曾ひのきのサプライチェーンがこれらのエリアで展開されているが、これは建築時や資材搬送時の環境負荷も考慮した結果だ。

◇モデルハウス一覧はこちらから

快適性や耐久性に優れたもりぞうの家は、北陸や甲信越といった寒暖差が大きい地域ほど有効性を増す。「夏は涼しく冬は暖かい」「春や秋のような自然な空気感」という快適さを長い時間、体感できるようにし、冷暖房設備の使用を少なくする。住まう人にとって、我慢を強いることなく、四季の移り変わりを慈しみながら自然と共生できるハイレベルなパッシブ志向の住宅である。

木曾ひのきの良さを生かした在来木造軸組工法の住宅で、使えば使うほど味わいが増すだけでなく、湿気による腐食やシロアリにも強く、劣化しにくいといった素材の利点を生かし、100年住み継げる家を可能にした。

裏面へ



例えば鉄筋コンクリートの建物は、強度も高く、経年劣化に対しても優れているように思えるが、インフラの設備と同様で、年月が経つとメンテナンスや大規模修繕、建て替えなどが必要となる。建物としての更新性を考えた場合、長期にわたれば経済的にも環境面でも、課題がないとは必ずしもいえない。もりぞうでは、耐久性に優れた木曾ひのきを使い、木造軸組み工法の住宅で制震・断熱・蓄熱を可能にし、長期にわたる「快適」と「永く使う」の両立を目指した。

もりぞうの「100年住み継ぐ家」は、間仕切りの変更はもとより、太陽光発電や新式給湯器などの追加設置といった後追いのニーズにも充分対応できるよう、あらかじめ家の性能が設計されている。躯体の20年保証※のほか、10年、20年先に求められそうな環境性能や省エネルギー基準も視野に入れているのだ。スマートハウスの必要条件となる高い性能をもった家は、これからの新しい技術に対しても、いつでも対応できる体制を敷いているという。

※10年目のメンテナンス工事などの条件あり。



価値を共有するために

お客様に木曾ひのきの魅力を伝え、さらに家に住むことで森林保全にも資するという気づきを提供し続けているもりぞう自慢の試み、「木曾ひのき体験ツアー」を最後に紹介しよう。

◇ツアーの様子はこちらから

森の凜（りん）とした空気の中、木曾ひのきに係わる様々な話を聴き、製材の工程などを見学し、木曾ひのきの質感や香りを五感で感じられる。隣接しているもりぞうのモデルハウスは宿泊も可能で、検討中の大多数のお客様が実際に足を運んでいるという。なかには契約後にツアーに参加する人もいるとのこと。木曾の現地で素材の価値と品質の高さを確認できることの意義は大きい。



また、アフターメンテナンスなどの情報提供の場として「もりぞう倶楽部」という会員組織がある。倶楽部では、家族構成の変化や技術の進化による住まい方のバリューアップを提案。セキュリティや各種保険など、「住まい」に関して多岐にわたる情報を発信。そこで集まったお客様の声は商品開発へフィードバックされる。

「住むほどに、愛着が深まる家・誇りを持てる家」。すべてのお客様にこの思いを共有してもらえるようなサポートを、今後もりぞうは続けていくことだろう。



株式会社もりぞう 代表取締役社長

津野浩一（つの・こういち）
東京都出身。

早稲田大学理工学部建築学科を卒業後、三菱商事に入社。
開発建設部門、金属部門、新機能部門に所属し、住宅保証及び住宅金融に関する新事業開発を行う。三菱商事退職後は、2004年9月にTNパートナーズ株式会社を設立、代表取締役社長に就任し、不動産再生と企業再生を手掛ける。
2009年10月株式会社もりぞうを設立、代表取締役社長に就任し、現在に至る。